

# 病気療養中の児童生徒への 学習支援



～ ICT を活用して～



知っていますか？



病気やけがによる入院・自宅療養中

学校に登校できなくても



在籍する学校とつながることができます



友達や先生とのつながりは

治療に向かう大きなエネルギーになります

病弱教育サポートセンターきらい☆  
(秋田きらい支援学校内)



病児学習支援ボランティア人材バンク

## ICT 活用（遠隔教育）に関する制度等



近年、病弱教育に関する制度が見直されています。  
出席、単位認定となる場合があります。下記をご確認ください。

- 平成27年4月 高等学校等における遠隔授業の制度化〔学校教育法施行規則改正〕
- 平成30年9月 小・中学校等における同時双方向型授業配信の出席要件の緩和〔文部科学省通知〕  
⇒オンラインでの授業配信により指導要録等上の出席扱いが可能
- 令和元年11月 高等学校等における受信側の教員の配置要件の緩和〔文部科学省通知〕  
⇒病室等への当該高校の教員配置を必ずしも必要としない
- 令和2年4月 高等学校等における同時双方向型授業の単位修得数上限緩和  
〔学校教育法施行規則改正〕  
⇒病気療養中等の生徒の修得する単位数の制限（74単位中36単位まで）を緩和
- 令和5年3月 高等学校等の病気療養中等の生徒に対する遠隔教育要件の緩和  
〔学校教育法施行規則改正〕  
⇒体調により同時双方向型授業が難しい場合はオンデマンド型授業が可能

## 病気の子どもたち、かかわる人たちの悩み

休んだところの勉強が分からない。学校に戻ってからのことが心配だな。



友達にも会えなくてさみしいな。  
今、みんなは何をしてるかな。

子ども

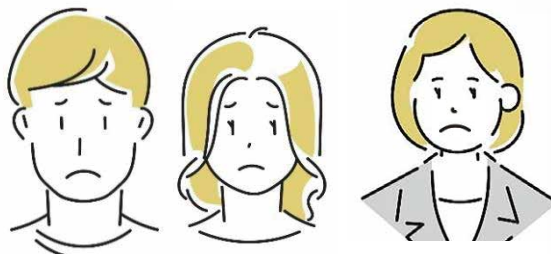
通院や入院で休みがち。  
授業や学校生活から取り残されるようで不安だな。

保護者

担任

入院中は、治療が優先だろうけれども、どのくらい勉強は休まなければいけないのだろうか。

入院生活が続くと、うちの子は、同級生に忘れられてしまわないだろうか。



入院中も、学校から何かしてあげられることがあるのかしら。



# 病気の子どもたちへのICTを活用した学びの支援

## 在籍校の授業に参加

在籍校の授業をオンラインで受けることができます。県外の病院から参加することもできます。



在籍校のタブレット端末を、自分で操作します。

参加する授業について、学校とメッセージ機能で連絡をとります。

顔を出すことに抵抗がある場合でも、アバター\*を表示させることで、安心して授業を受けたり、友達と話したりすることができます。

\*ユーザーの分身となるキャラクター



担任や教科担当と直接、話すことができます。画面越しに、問題の回答を確認してもらいます。

## 友達との会話

病弱教育サポートセンターきらり☆では、次の機器を貸出しています。また、オンライン授業の接続等のお手伝いもいたします。

いつでもお声掛けください。

- テレプレゼンスロボット kubi
- 分身ロボット OriHime
- iPad
- ポケットWi-Fi



## 在籍校の集会や行事に参加

オンラインで学年集会に参加したり、学校行事（運動会、合唱祭、壮行会など）の様子を見たりすることができます。



テレプレゼンスロボット kubi

教室にある kubi を病室から操作して、黒板や発表する友達など、見たい方向に向きを変えて見ることができます。

教室にいる OriHime の顔や手を病室から操作して、友達とコミュニケーションを楽しむことができます。



分身ロボット OriHime



休み時間に、友達とおしゃべりを楽しむこともできます。



# 入院中の支援についての声

## 短期入院した小学2年生より

リレー選手に選ばれていたのに、入院で運動会に出られなくなってとっても悲しかった。でも、当日グラウンドとつないだ**タブレット端末**で運動会の様子を見せてくれたから、病室から応援できたし、友達とも話ができうれしかった。

リレーは負けてしまったけど、「来年は一緒にリベンジしようね！」って友達と約束したよ。



## 長期入院した高校1年生より

他県病院への長期入院で単位の修得が気になっていた。担任の先生、サポートセンターきらりの先生、病院のワーカーさんが連絡を取り合って、入院中も**kubi**や**Zoom**でオンライン授業を受けられるようにしてくれた。術後の辛い時期も主治医や看護師さん、ワーカーさん、リハビリ担当の先生が支えてくれた。退院後の自宅療養中もオンライン授業を受けたおかげで、久しぶりの学校にも不安なく登校できた。

## 中学校の学級担任より

初めてのオンライン授業で不安があったが、サポートセンターきらりから機器(**OriHime**)の貸し出しや接続のサポートがあり心強かった。

オンライン授業が入院中の生徒の励みになっていたと聞き、やって良かったと実感している。



## 保護者より

以前は入院したら欠席になっていた。今回は、在籍校と相談し、**タブレット端末**を病室に持って行き、オンライン授業を受けることで、出席扱いになったため、安心して治療に専念できた。

勉強の遅れや友達と疎遠になることへの心配が軽減され、復学に向けての意欲が高まり、治療やリハビリに前向きな姿がありうれしく思った。

## 県外の大学病院

### ソーシャルワーカーより

患者さんが持参した**ノートPC**や**タブレット端末**を院内のWi-Fiに接続し、学習時に使用する部屋の準備等の環境調整を行った。入院中のオンライン授業の重要性について、小児科以外の医師への普及、啓発をしていきたい。

## 総合病院小児科医師より

サポートセンターきらりが間に入ることで、入退院時に必要な学校との情報共有がスムーズになりありがたい。

オンライン授業以外にも友達との何気ない会話や先生からの励ましは患者さんにとって大きな励みになっており、医療者にとっても喜ばしい。



# 関係機関と連携した支援



本人

医療

入院時

保護者

主治医や在籍校を通じて病弱教育サポートセンターきらり☆に依頼することで、病院で**相談支援**が受けられます。主治医からの治療予定や配慮事項、本人・保護者からの支援ニーズと合わせて復学までの支援内容を検討します。手続きについては下記QRコードよりご覧ください。

病弱教育サポートセンターきらり☆  
(秋田きらり支援学校内)

018-838-1181



病児学習支援  
ボランティア

在籍校・園

入院中

在籍校や病児学習支援ボランティアと連携した**学習支援**を受けられます。復学に当たっての不安や緊張を軽減できるよう、病室にしながらオンライン授業に参加したり、友達とやりとりしたりすることができます。

地域の  
特別支援学校

退院時

県・市町村  
教育委員会

退院後も自宅療養や学校生活における活動制限がある場合には、主治医、保護者、学校（管理職、担任、養護教諭等）と連携し、**復学支援会議**を行うことができます。

病弱教育サポート  
センターきらり☆

病弱教育サポートセンターきらり☆は秋田きらり支援学校に設置されています。  
秋田県内の病気の子どもたち一人一人のニーズに応じ、関係機関と連携した支援を行っています。



# 学習支援ボランティアとの連携

病児学習支援ボランティアは、秋田大学教育文化学部・教職大学院の学生を中心に活動しています。病気のため、入院や自宅療養している小学生から高校生までを対象に、オンラインでボランティアによる学習支援が受けられます。オンラインのため、県外の病院でも支援が受けられます。

## ボランティアの大学生より

入院中の高校生に対し、休日や長期休業中のオンラインでの学習支援を担当しました。ボランティア3人で4教科を担当し、事前に学習支援の時間割を作成しました。

開始前には、生徒さんやサポートセンターきらりの先生とオンラインで顔合わせの会があり、普段の様子や配慮事項等を共有することができ安心して学習支援を始めることができました。

生徒さんとは年齢も近く、学習以外の話もしながら仲良くなれたことがうれしかったです。



## 利用した高校生より

高校のオンライン授業がない長期休業中の学習支援をボランティアさんをお願いしました。勉強以外にも好きなことなどを話す時間が入院中の楽しみでした。術後だったため、画面上に顔を映さずにアバターを使うことで安心してオンライン学習ができました。

診察やりハビリがない休日は一日が長く感じられますが、休日も学習支援を入れてもらい、充実した入院生活になりました。



### 【お問合せ先】



#### 病弱教育サポートセンターきらり☆ (秋田県立秋田きらり支援学校内)

〒010-1409 秋田市南ヶ丘一丁目1番1号

電話：018-838-1181

メール：kirari-support@akita-pref.ed.jp



#### 病児学習支援ボランティア人材バンク

(秋田大学教育文化学部 特別支援教育コース 藤井慶博)

〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

電話：018-889-2596

メール：fujii-yoshihiro@ed.akita-u.ac.jp



このリーフレットは、一般財団法人秋田県教育関係職員互助会「令和5年度県内NPO法人等公益目的事業」の助成により作成しました。

